

# さよなら佐野唐沢山コース

栃木県佐野市 佐野唐沢山コース

大高竜亮

2007年3月いっばいで廃止される佐野唐沢山コース。28年前の自分に戻ったような晩秋の森があった。

「佐野唐沢山」コース  
栃木県 No.35 JOA公認 No.171  
10 km 12 ポスト

## 伝統のコースが閉鎖目前

パーマネントコースも誕生から36年。地形の変化、利用者の減退、様々な理由で存続が困難となり、数多くのコースが閉鎖に追い込まれてきました。そしてまた1つ。

スタート地点として長年利用者を迎えていた「唐沢青年の家」が平成18年度一杯で閉館になることから、栃木県のトップバッターを勤めた「佐野唐沢山」コースの廃止が決まりました。

コースの誕生は昭和47年11月14日。公認ナンバーでは、同じ栃木の「大谷観音(公認 No.42)」「栃木太平山(公認 No.43)」「那須エクダム(公認 No.64)」が先になっていますが、これら3コースが登録されたのは翌48年のこと。関東地区ナンバーでは唐沢山コースが最も若い番号が与えられています。

## 28年前の出会い

私とこのコースの出会いは、パーマネントコース巡りを家族で始めて4ヶ月目のこと。当時の私はまだ8歳。オリエンテーリングに関しては5番ポストが林の奥にあったこと、11番ポストが岩の下にあったことを薄っすら覚えているくらいで、ナナフシやカミキリムシ、小クワガタといった昆虫を捕まえたことのほうが印象に残っています。それ以来の再訪。28年もの時が経過しました。

## ラーメンの街 佐野

新宿から湘南新宿ラインの快速で小山まで行き、両毛線で「佐野」駅に降り立ちます。お昼前でしたが、佐野といえばやはりラーメン。駅前の「じゅん亭」に入り、チャーシュー麺をオーダーします。あっさりとした醤油味のスープに縮れ麺。脂身の少ないチャーシューを5枚乗せて、一杯850円。ほどよく腹が満たされ、いよいよスター

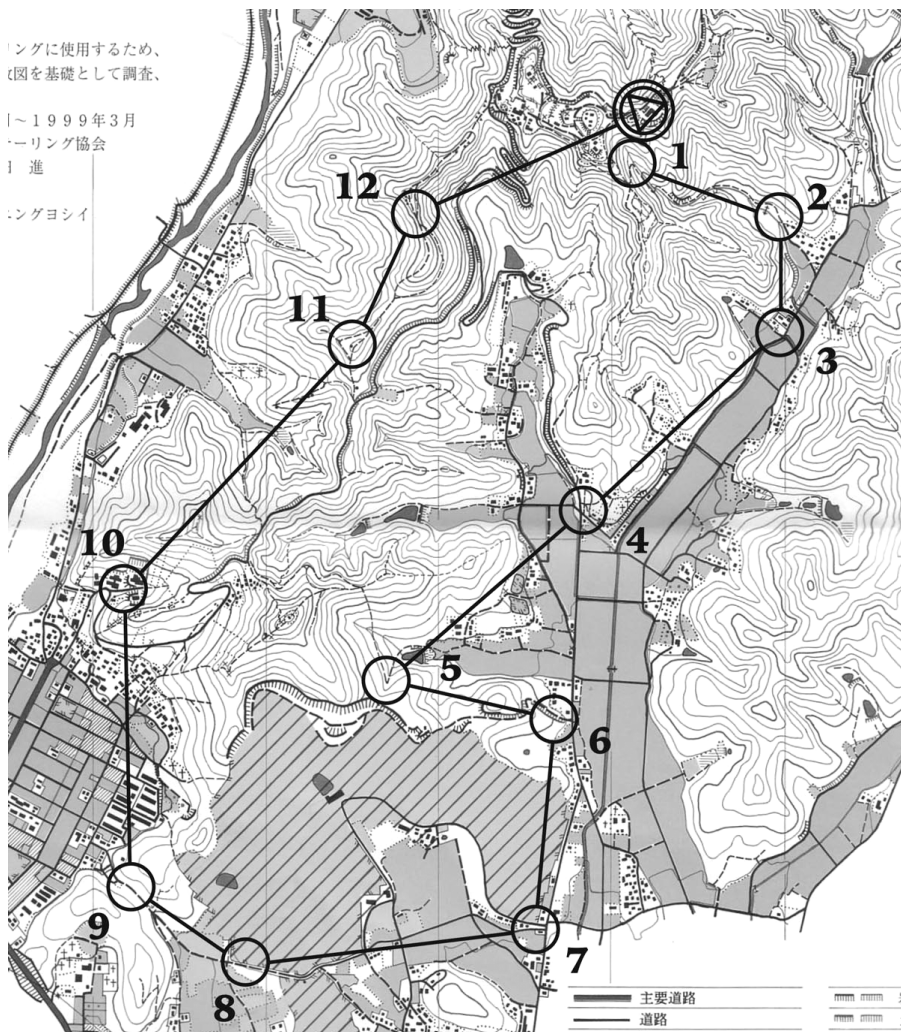
ト地点の「唐沢青年の家」に向かいます。前は東武佐野線「田沼」駅から歩きましたが、今回はタクシーを利用。山道をゆっくりゆっくり登っていき、約7kmの道のりで代金は2,260円。閉館間近を思わせる古びた雰囲気に青年の家は包まれています。2階にある事務室を訪れると、前日に電話を入れていたこともあり、すぐにマップを用意してくれました。1:25,000の古典マップが7年前に刷新され、1:15,000のO-MAPとなっています。案内板に掲示されているマスターマップのコース図はぎりぎり判読可能といった状況です。全12ポストのコースは全く変更がなく、一度歩いたコースをそのまま歩くことが今も可能であることに、なんとも言えない感慨が湧き起こってきます。

## 初心者にも安心のコース

唐沢山県立自然公園に設定されたコースは、最初と最後だけが山間部で、大半は平易な道歩きとなります。特に歩行困難なルートもありません。初心者にも安心なコースです。

スタートは12時17分。紅葉の敷き詰められた山道から「唐沢山神社」境内を通過し、遊歩道をたどると折り返し地点でさっそく第1ポストに到達します。残念ながら横倒しにはなっていますが、以前のポストが今も健在です。赤色も鮮明で、記号の判別もまったく問題ありません。

第2ポストへは沢沿いをくだります。古い地図では真っすぐに記されているルートも、新地図には小さなS字カーブもしっかりと記載されています。O



Lに触れてわずか3ヶ月あまりの時に、国土地理院の不親切な地図でよくも歩いたものだと言えながら驚かされてしまいます。山を下り切り、堰の横を過ぎると、これまた鮮明なポストが姿を現します。しっかりと直立するポストは凛々しささえ漂わせています。

この先、北関東自動車道唐沢山トンネル工事が始まり、迂回路ができています。トンネルの掘削はこれからの様子。不思議とこうした造成があると、ポストを直撃している事態に遭遇しますが、ここは大丈夫。道端にある第3ポストは誰の目にも遠くから確認できるでしょう。老朽化が激しかったのか、三角頭は手直しされています。

見通しの利く山すその里道をのんびりと歩いていきます。薄雲の広がる12月ながら、気温の高めのこの日は散策にうってつけ。都会の喧騒や仕事を忘れられる、絶好の癒しのルートです。第4ポストは「唐沢山神社」と「露雲根神社」の2つの鳥居の間に設置されています。12個のポストのうち、ここだけFRP製に置き換えられていました。平成4年の助成金で製作されたものですが、よくありがちな記号の流れはありません。

第5ポストは出戻りでアタック。記憶に残る数少ないポストです。少しでも出戻り区間を短くしようと、古い地図には記載のないどう園を抜けるルートを選択します。若干の上り下りを経て、突き当りを西に向かうと溜池が現れます。その先はオリエンティアのみの聖域のようで、人が歩いた痕跡が希薄になってきます。「そうそうこんな感じ」と記憶のイメージ通りの林の中を進み、一見突き当たりにも思える折返し地点でポストを発見します。

そのまま引き返し、突き当りを南に向かうと第6ポストは道をわずかに入ったところにあり、倒れてはいるものの道からも確認できます。土がべっとりと付着しているわけでもない三角頭からすると、比較的最近までまっすぐに立っていた様子です。

## ゴルフ場を周回

この南側にはゴルフ場が広がっています。昭和53年当時にもあったこのゴルフ場、正式には「唐沢ゴルフ倶楽部唐沢コース」といい、昭和36年開設という歴史のあるコースです。第7ポストはゴルフ場の入口に近い道端に設置されています。赤錆が全体を包み、年

季を感じます。

途中、一部未舗装部分をはさみながら、ゴルフ場の南を走る道路を西に向かいます。土曜日ということもあり、ゴルフ場には利用者が散見されます。無人カートも走り、古いコースながら施設は最新の様です。そんな一角、フェンスの内側に第8ポストはあり、古びた姿で迎えてくれます。今回はこの近くの昼食休憩をとったはずなのですが、まったく記憶がありません。



そのまま西に向かい、緩やかな丘をのぼると第9ポストは道端にひょっこり顔を覗かせます。比較的最近更新されたポストのようで、ステンレスの支柱や頭の赤色が輝いています。

土地にはまだ余裕のある住宅地を抜け、青年の家に通じる舗装道路に入ります。「軽費老人ホーム唐沢グリーン・ピラ」前のヘアピンカーブの先で第10ポストが確認できます。このポストも更新されたものです。

ここからしばらくは単調な道路を緩やかに登っていきます。少しずつ高度を稼ぎ、尾根筋から左手に山が迫ってくると、遊歩道の入口に差し掛かります。このコース最大の急勾配が待ち構える山道に入り、一気に上り詰めると記憶と違わぬ岩の下方に第11ポストがありました。

汗をぬぐい、いよいよ最終ポスト。2つ目のピークは「初心者コース」を選んで迂回し、松林を抜けて鞍部の分岐で無事確認。初期のポストに印字されていた「日本OL委員会公認コース」の文字もはっきり読み取れるほどの鮮度を維持している驚異的なポストで有終の美を飾り、ゴールへ向かいます。

## 山城・唐沢山神社

山を抜けたところにある「鏡岩」には、その昔、上杉謙信が「唐沢山城」を攻め入った際、西日を反射させて、困難に陥れたという逸話が残されています。標高240m、関八州随一とも言われる眺望に恵まれたこの「唐沢山城」

約千年前の延長年間、藤原秀郷による築城とされ、江戸初期の山城禁止令による廃城までの700年間、子孫の佐野家が居城として守り続けていました。「唐沢山神社」は明治期に建立され、秀郷公が祀られています。二拝二拍手一拝の参拝を済ませ、コースを終えました。



前回、帰途は唐沢山神社からバスを利用しましたが、これもすでに廃止されています。下り坂をのんびり歩き、40分かけて「田沼」駅に到着。3両のローカル線で館林に向かい、特急に乗り継いで北千住まで戻り、田園都市線直通急行で帰宅しました。

3月末の廃止まで残りわずかとなりました。一度歩いた方も未踏破の方も、最後の姿を目に焼き付けに訪れてみませんか。

(2006年12月16日 踏破)  
(大高竜亮)

